

# 2021年9月期 第3四半期 決算説明資料

2021年8月13日

株式会社ツナググループ・ホールディングス（証券コード 6551）



---

① 第3四半期決算概要	P. 3
② 通期業績予想について	P. 7
③ 今後の成長に向けた取り組み	P. 1 1
④ 第3四半期決算詳細	P. 1 4
Appendix	P. 2 3

---

# ① 第3 四半期決算概要

## ① マーケット環境は一進一退

- ・ 製造業が堅調な一方、個人向けサービスの低迷が続くなど、業種による二極化が鮮明に
- ・ 国内の雇用情勢は、依然として厳しい状況が続いている

## ② Q3は売上回復が進む

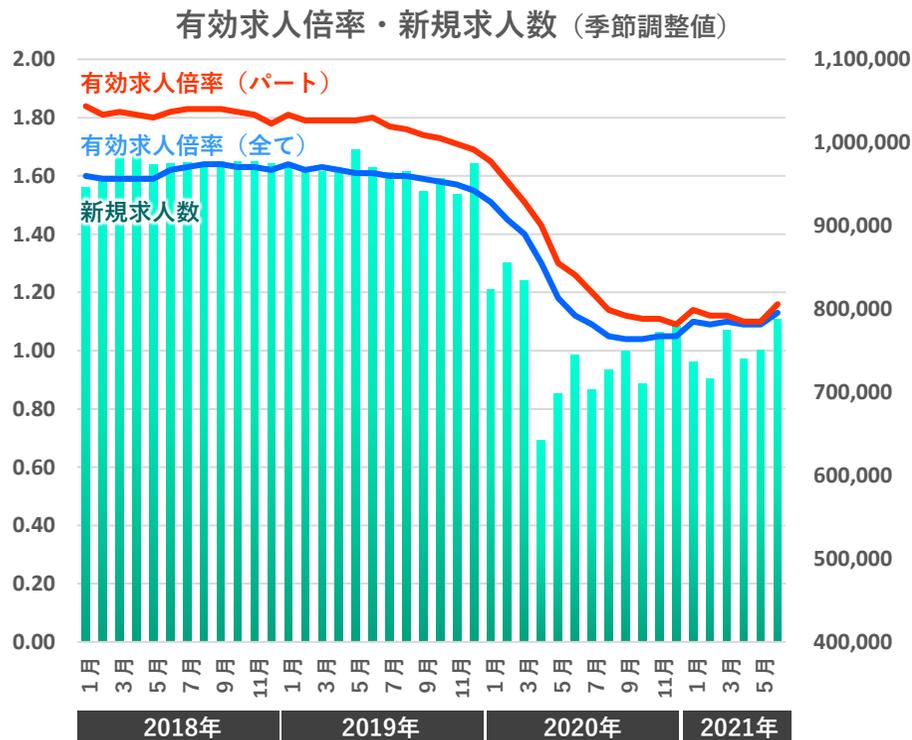
- ・ 当社経由の求職者数、顧客数ともに回復が続き、YoYで+14.1%\*の増収
- \* 当第3四半期から連結対象外となる(株)ツナグ・スタッフィングの売上を除いたYoY

## ③ Q2に続き、Q3も黒字化

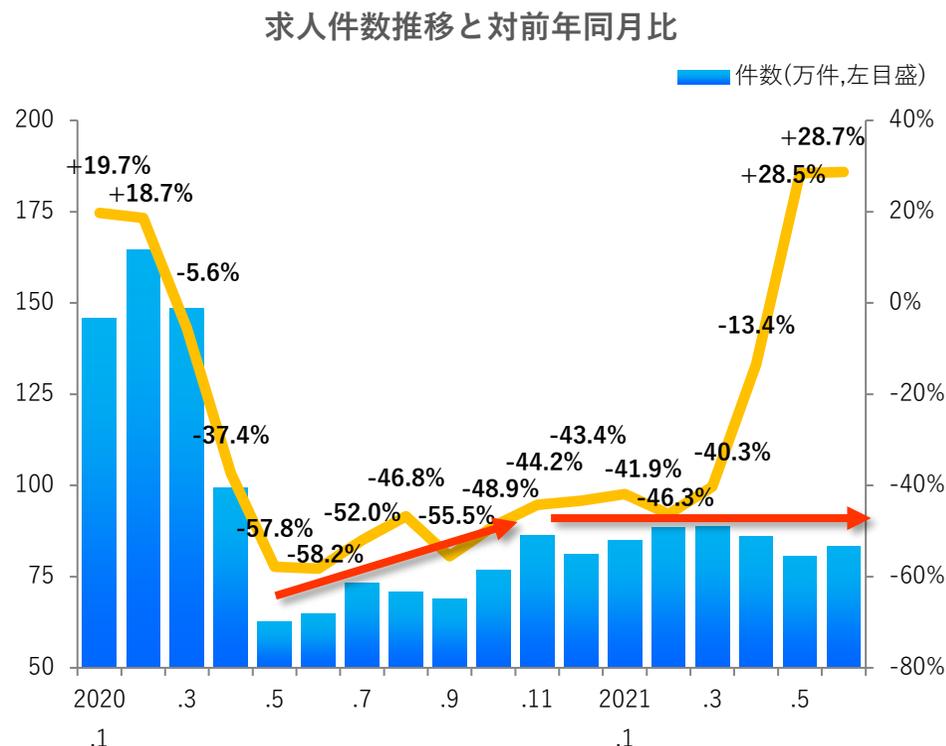
- ・ 営業利益は第2四半期に続き、第3四半期も黒字化
- ・ EBITDAは第3四半期累計期間において134百万円

## 新型コロナにより国内の雇用情勢は厳しい状況が続いている

新型コロナ感染拡大が収束せず、企業業績の回復は限定的。新規求人数及び有効求人倍率は一進一退であり、全国求人情報協会が発表した求人広告掲載件数も2020年11月以降はほぼ横ばいで推移。雇用情勢は依然として厳しい状況が続いている。



出典：厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」



出典：公益社団法人全国求人情報協会「調査発表/求人広告掲載件数」

# 第3四半期 連結決算サマリー

第3四半期累計期間の売上高は83億93百万円、営業利益は1億62百万円の営業損失となるも、EBITDAは134百万円まで伸長。

第3四半期は営業利益33百万円と、第2四半期に続き2Q連続の黒字決算となった。

(百万円)	FY21 第3四半期累計	対前年比 (増減額)	FY21 Q1 第1四半期	対前年比 (増減額)	FY21 Q2 第2四半期	対前年比 (増減額)	FY21 Q3 第3四半期	対前年比 (増減額)
売上高	8,393	▲11.4%	2,731	▲19.7%	3,154	▲11.5%	2,507	+0.0%
原価	4,357	▲11.3%	1,475	▲16.2%	1,691	▲7.3%	1,189	▲10.3%
売上総利益	4,035	▲11.5%	1,255	▲23.5%	1,463	▲15.9%	1,317	+11.6%
販売管理費	4,197	▲15.7%	1,518	▲13.6%	1,393	▲22.1%	1,284	▲9.9%
営業利益	▲162	(+254)	▲263	(▲146)	69	(+122)	33	(+278)
EBITDA*	134	(+226)	▲145	(▲141)	166	(+103)	113	(+264)

\*営業利益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

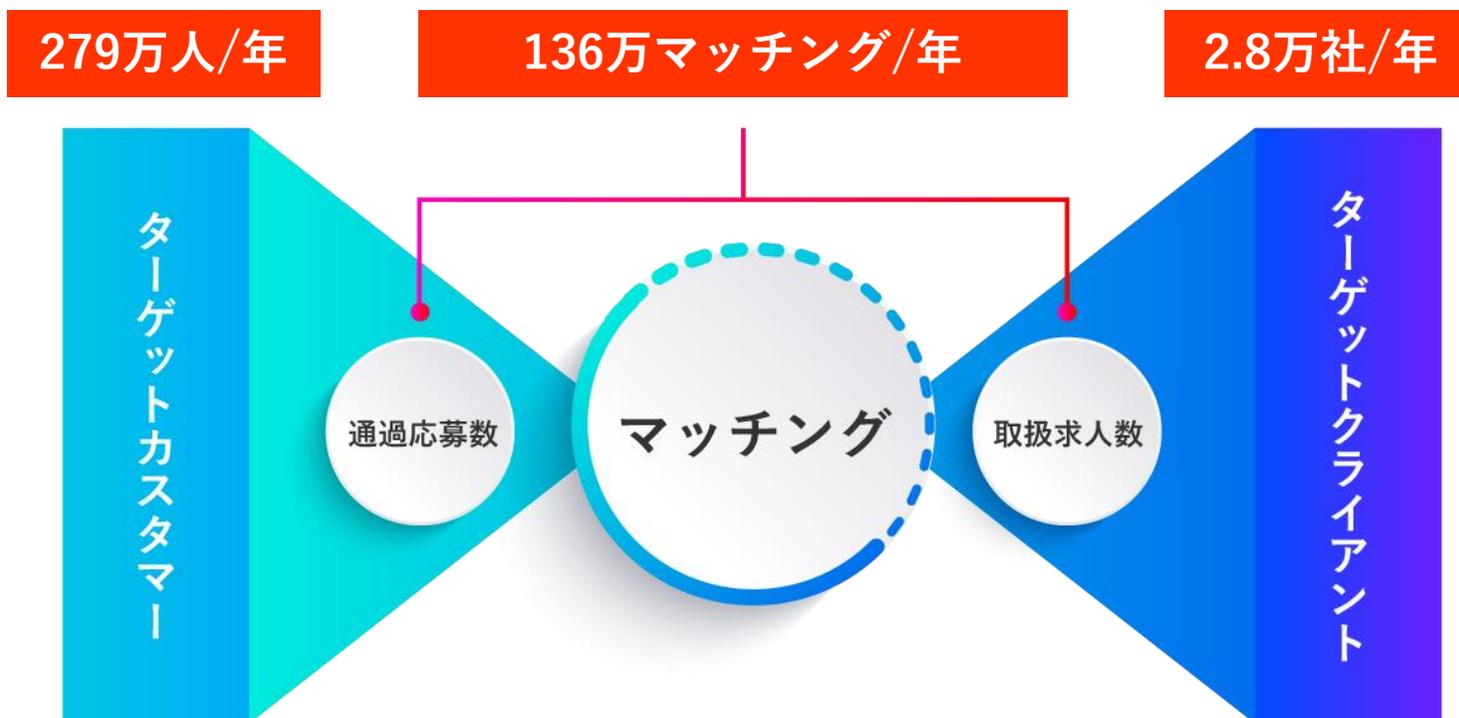
(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております

## ② 通期業績予想について

コロナ下の厳しい環境ではありながらも、当社経由の求職者数、顧客数は確実に回復している。

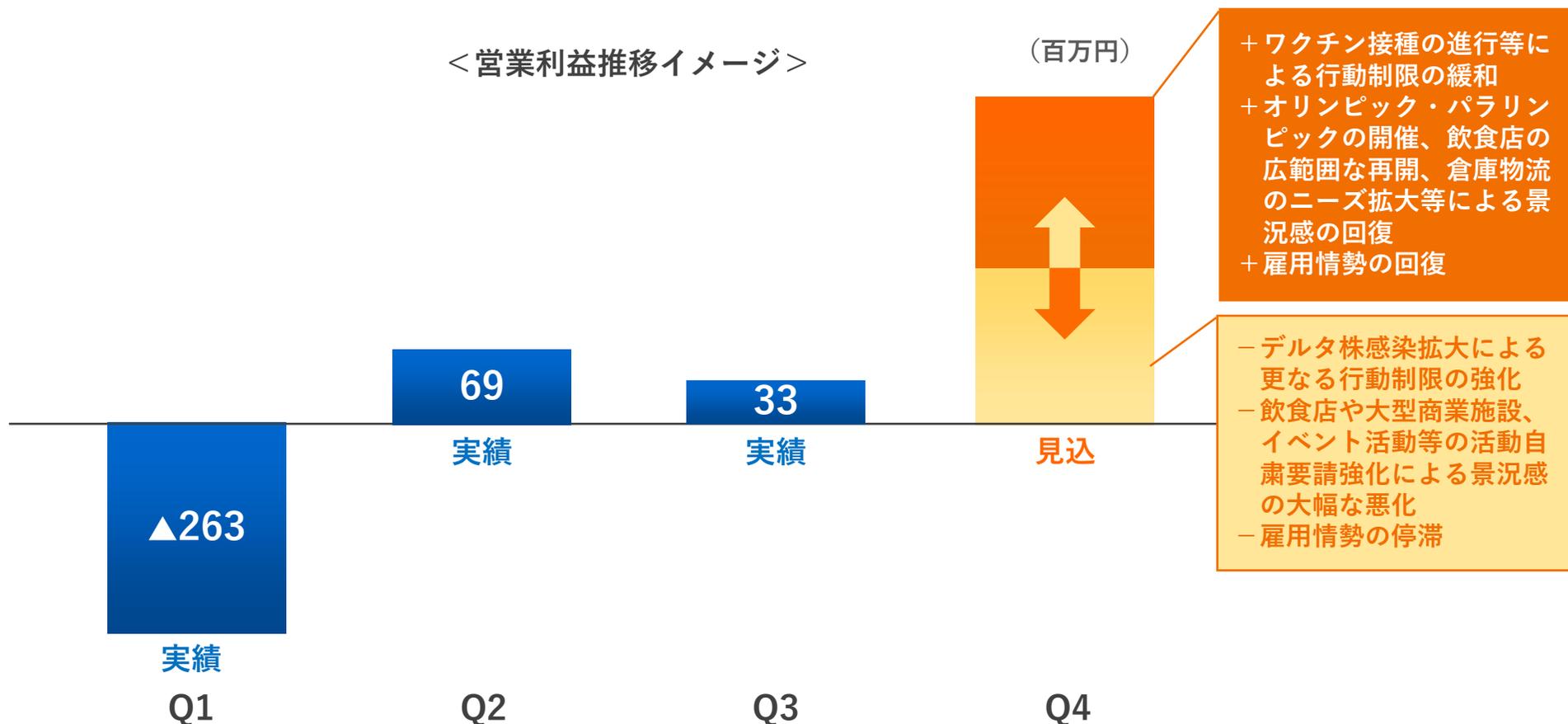
- ✓ カスタマー数 2021年6月 25.7万人 (2020年6月 月間約20.5万人) +**25%増**
- ✓ クライアント数 2021年6月 2,350社 (2020年6月 月間2,100社) +**11%増**

<年間カスタマー数、クライアント数状況>



第4四半期は構造改革による利益率の向上を維持し、売上回復に向けた事業活動を本格化することで大幅な営業利益の改善を見込んでいるものの、諸々の外的要因により、当社の事業環境は大きく変容することも予想される。

<営業利益推移イメージ>



現時点での通期業績予想は、当初予想を据え置き、売上高125億円、EBITDA\*4.4億円とする。ただし、新型コロナウイルスの業績影響を精査の上、業績予想の修正が必要な見込みとなった段階で速やかに開示する。

## FY21通期業績予測

(百万円)

通期	FY20	FY21	YoY
売上高	12,098	12,500	3.3% (+402)
EBITDA*	△171	440	－ (+611)

\* 営業利益に、のれん並びに減価償却費用を加算した調整後EBITDA

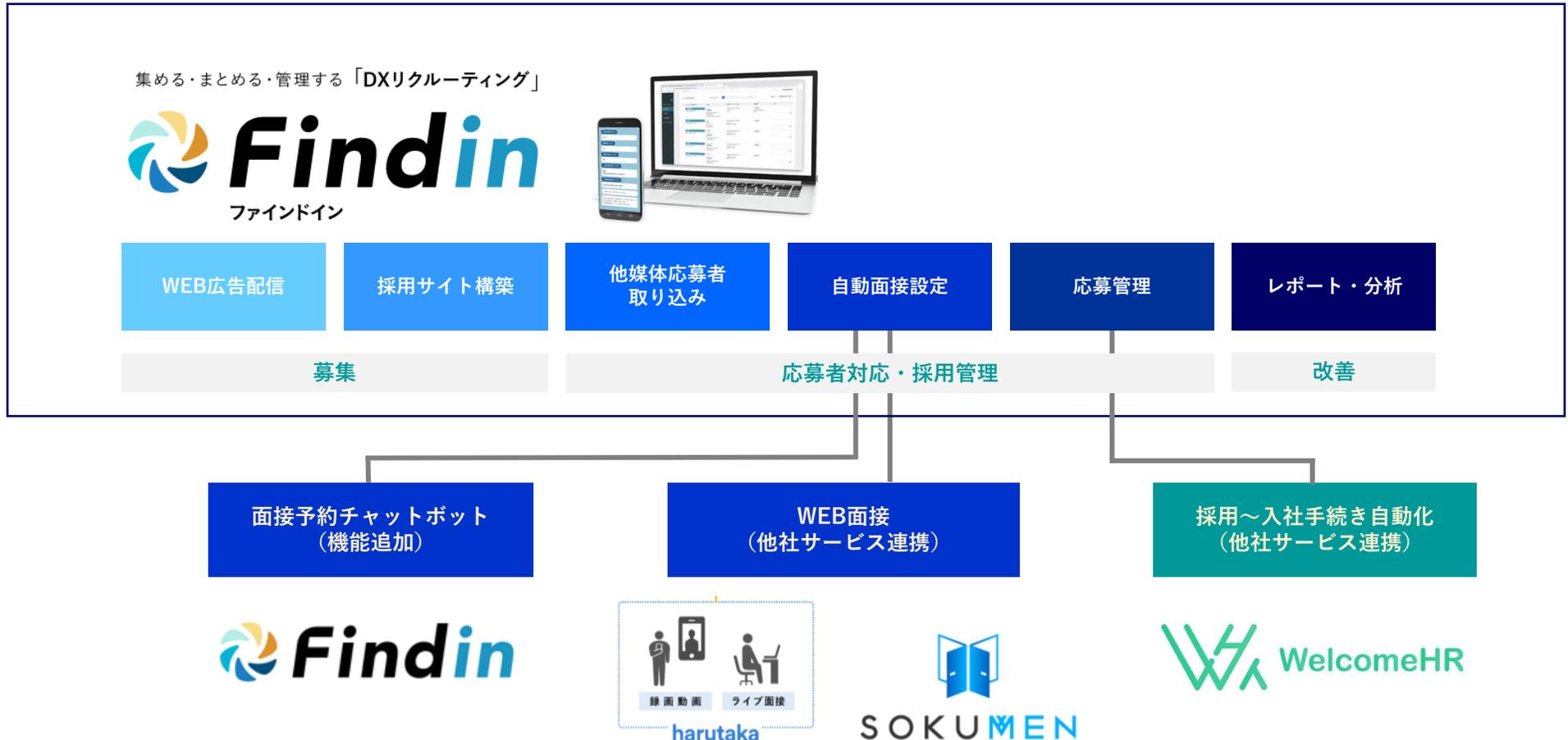
※配当につきましては、引き続き未定とさせていただきます。

## ③ 今後の成長に向けた取り組み

「採用市場におけるインフラ企業」を目指し、DX推進を一気に進める

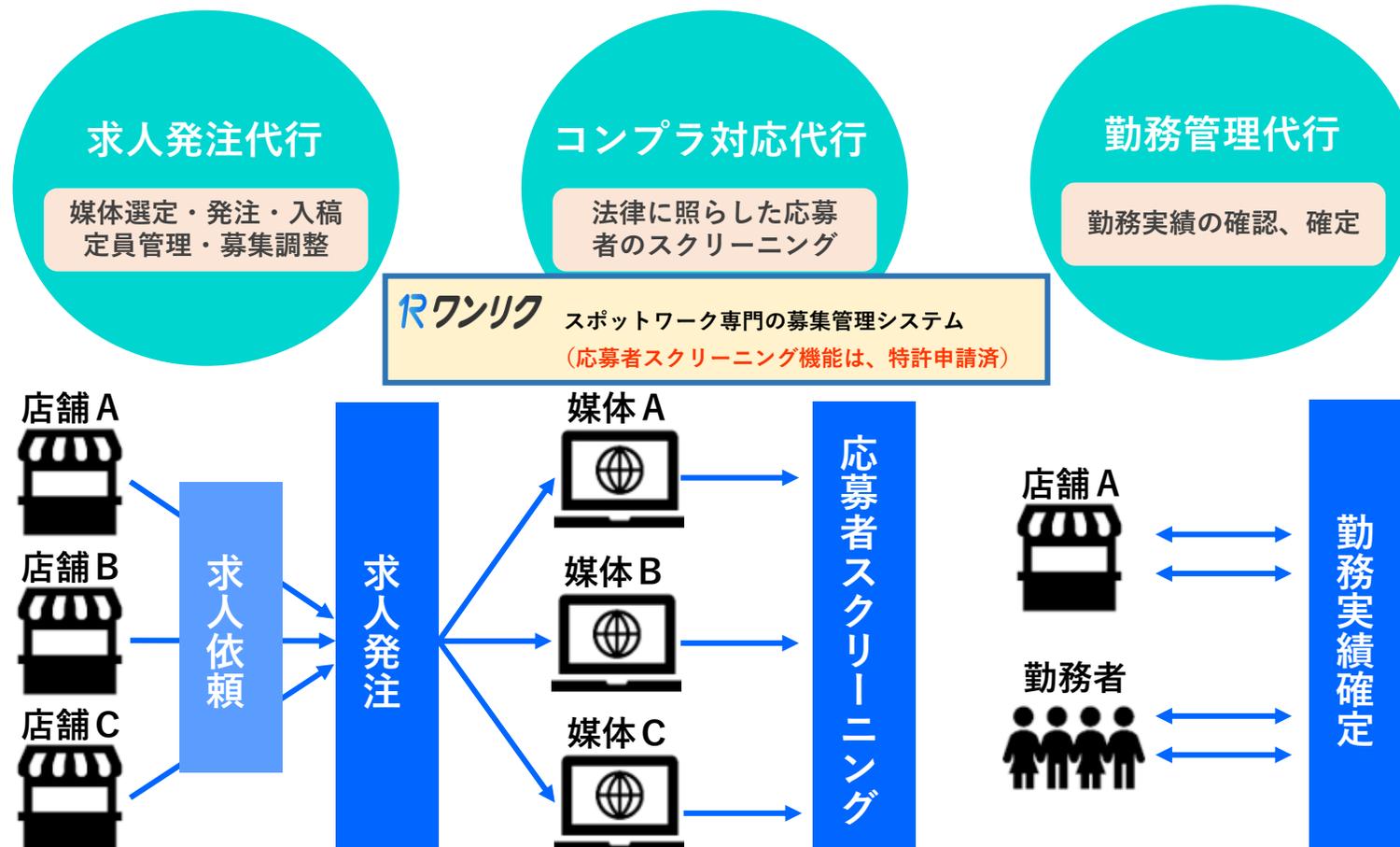
# ① RPO（採用業務アウトソーシング）のDX推進

DXリクルーティング「Findin（ファインドイン）」の機能拡張、及び、他社サービスとの連携開発により、採用関連業務のDX化を強力に推進。



## ② スポットワーカー採用業務代行「ツナギグ」

スポットワーカー採用業務代行「ツナギグ」サービスを開始、  
 求人発注から勤務確定までのDX化により、利用企業の利便性を大幅に高める。



## ④ 第3四半期決算詳細

# 第3四半期 連結損益計算書

第3四半期累計期間では減収であるものの収益構造の改善に成功。前四半期に続き第3四半期も黒字決算となり、EBITDAも134百万円まで伸長。

## 連結損益計算書

(百万円)

(百万円)	FY21 第3四半期累計	対前年比 (増減額)	FY21 Q1 第1四半期	対前年比 (増減額)	FY21 Q2 第2四半期	対前年比 (増減額)	FY21 Q3 第3四半期	対前年比 (増減額)
売上高	8,393	▲11.4%	2,731	▲19.7%	3,154	▲11.5%	2,507	+0.0%
原価	4,357	▲11.3%	1,475	▲16.2%	1,691	▲7.3%	1,189	▲10.3%
売上総利益	4,035	▲11.5%	1,255	▲23.5%	1,463	▲15.9%	1,317	+11.6%
販売管理費	4,197	▲15.7%	1,518	▲13.6%	1,393	▲22.1%	1,284	▲9.9%
人件費等	2,234	▲10.3%	784	▲6.7%	772	▲8.9%	677	▲15.6%
広告宣伝費	640	▲32.5%	215	▲42.0%	195	▲49.9%	229	+22.5%
地代家賃	195	▲22.6%	68	▲20.0%	71	▲21.1%	55	▲27.6%
償却費等	234	▲10.7%	96	+4.3%	76	▲14.6%	59	▲21.3%
他販管費	811	▲20.8%	271	▲26.4%	277	▲25.3%	261	▲8.1%
構造改革費用	82		82		0		0	
営業利益	▲162	(+254)	▲263	(▲146)	69	(+122)	33	(+278)
EBITDA*	134	(+226)	▲145	(▲141)	166	(+103)	113	(+264)

\*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

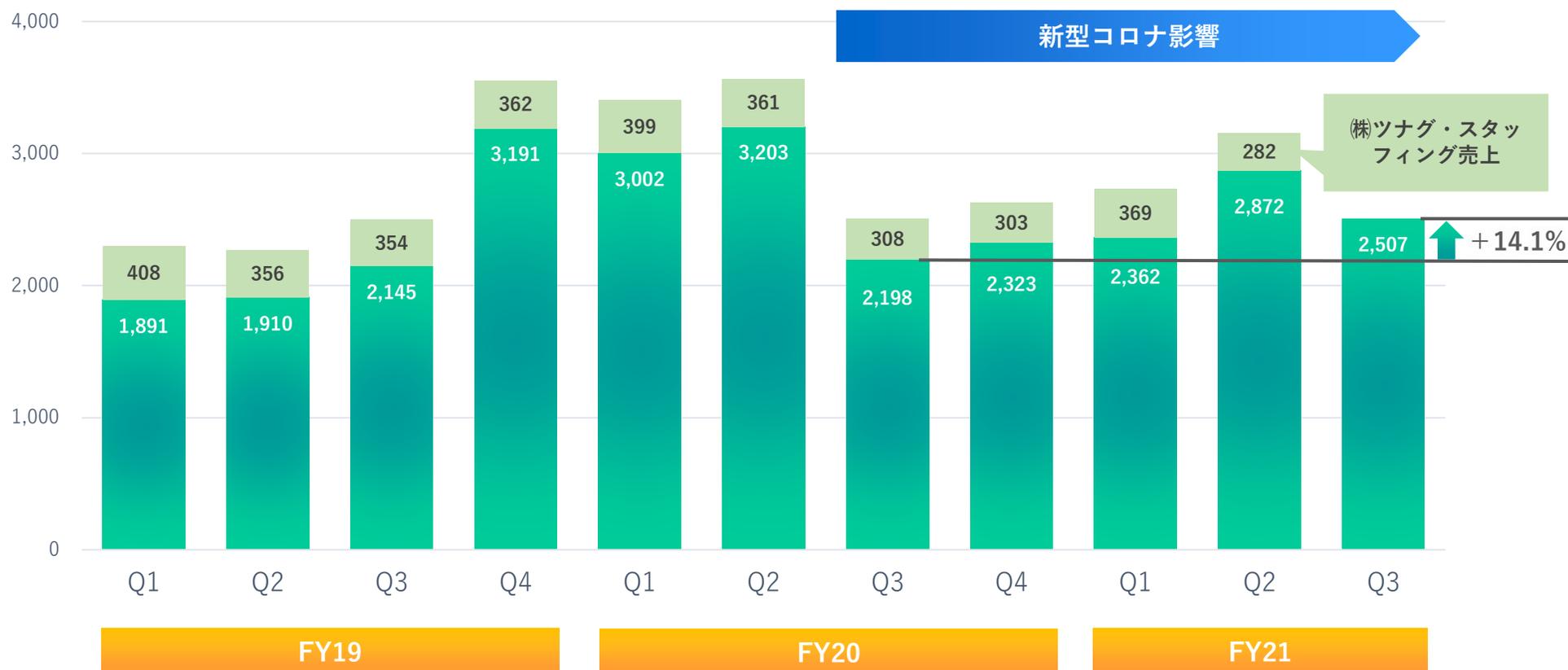
(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております

# 連結売上高推移

売上高は四半期毎に回復が続いている。株式譲渡により当第3四半期から連結対象外とした(株)ツナグ・スタッフィングの売上を除くとYoY +14.1%の増収。

連結売上高/四半期推移

(百万円)

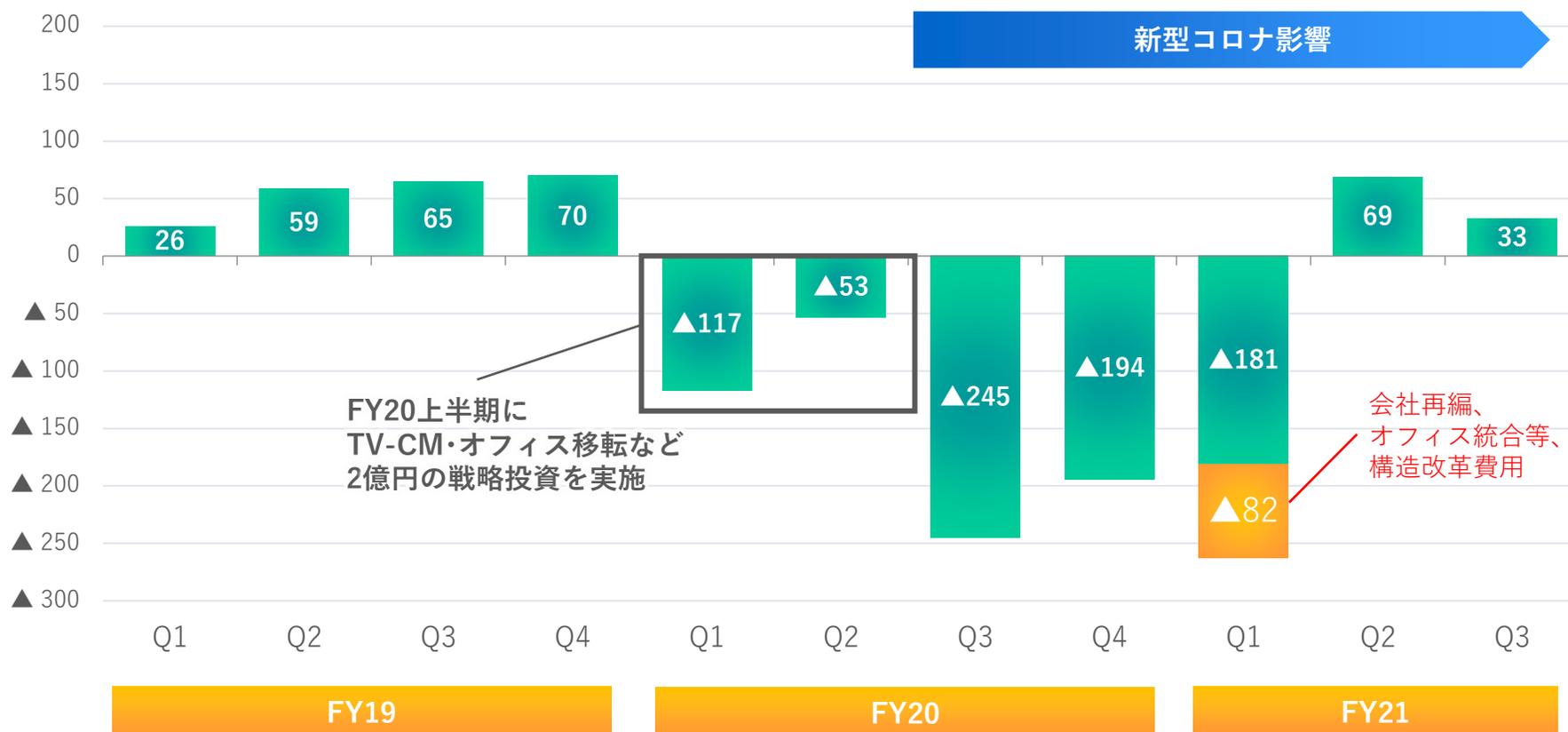


# 連結営業利益推移

収益構造の改善が進み、営業利益も回復基調。第3四半期の営業利益は33百万円となった。

連結営業利益/四半期推移

(百万円)



# 第3四半期 貸借対照表

新株予約権発行による自己資本の増強もあり、純資産は前期末より44百万円増加。

## 連結貸借対照表

(百万円)

(百万円)	20年9月末	21年6月末	増減
流動資産	2,336	2,223	△ 113
固定資産	2,965	2,527	△ 437
有形固定資産	248	220	△ 27
無形固定資産	2,247	1,871	△ 375
投資その他の資産	470	435	△ 34
<b>資産計</b>	<b>5,302</b>	<b>4,750</b>	<b>△ 551</b>
流動負債	2,489	2,221	△ 267
固定負債	2,091	1,763	△ 327
<b>負債計</b>	<b>4,580</b>	<b>3,984</b>	<b>△ 595</b>
資本金等	860	1,197	337
利益剰余金	△ 96	△ 387	△ 290
自己株式・非支配株主持分等	△ 41	△ 44	△ 2
<b>純資産合計</b>	<b>721</b>	<b>765</b>	<b>44</b>

## HRマネジメント事業

- RPO（採用業務支援）
- 人材定着支援
- 外国人採用
- 各種業務代行

## メディア&テクノロジー事業

- セグメントメディア
- HRテクノロジー
- トータルソリューション

## スタッフィング事業

- 人材派遣・人材紹介
- コンビニ店舗運営

RPO（採用業務支援）領域では、外食・サービス業を中心に採用活動の抑制が続いていることから売上高が大幅に減少。外国人採用領域においても外国人渡航制限の影響が続き売上高が減少。業務代行領域は堅調に推移。

(百万円)	FY21 Q3累計	前年比 (増減額)	Q1	前年比 (増減額)	Q2	前年比 (増減額)	Q3	前年比 (増減額)
売上高	2,431	▲8.3%	623	▲30.5%	1,024	▲0.2%	784	+8.0%
セグメント利益	▲ 21	(+ 16)	▲ 111	(▲ 108)	113	(+ 86)	▲ 22	(+ 40)

セグメントメディア領域では、都心部中心に求人需要の回復が低調なことにより減収も、短期単発求人の需要は高まり『ショットワークス』を中心に売上は回復。

HRテクノロジー領域では、ダイレクトリクルーティングサービスである『Findin（ファインドイン）』を中心に回復が早く、第3四半期累計ではほぼ前年と同額となる。

(百万円)	FY21 Q3累計	前年比 (増減額)	Q1	前年比 (増減額)	Q2	前年比 (増減額)	Q3	前年比 (増減額)
売上高	4,456	▲10.0%	1,354	▲25.5%	1,578	▲16.7%	1,523	+22.8%
セグメント利益	▲123	(+93)	▲89	(▲25)	▲17	(+10)	▲15	(+110)

コンビニ領域では、ニューノーマル下での中食需要に対応した売り場展開による日販の回復により前年同期比でおよそ2割の増収。

なお、人材派遣・紹介領域は新型コロナの影響により案件数が減少し収益化に時間を要することから、当領域の事業会社の全株式を譲渡し、当第3四半期より連結対象外としている。

(百万円)	FY21 Q3累計	前年比 (増減額)	Q1	前年比 (増減額)	Q2	前年比 (増減額)	Q3	前年比※ (増減額)
売上高	2,247	▲6.9%	914	+7.3%	797	▲4.1%	534	▲26.6%
セグメント利益	▲47	(+68)	▲7	(+29)	▲40	(▲2)	0	(+40)

(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております。

# Appendix

社名	株式会社ツナググループ・ホールディングス
設立	2007年2月28日
資本金	650,712千円（2021年3月末時点）
所在地	東京都千代田区神田三崎町3丁目1-16 神保町北東急ビル1F・2F
代表者	代表取締役社長 米田 光宏
従業員数	615名 / グループ合計（2020年9月末時点の正社員）
上場市場	東京証券取引所 市場第一部（証券コード：6551）



代表取締役社長

よねだ みつひろ  
米田 光宏

1969年生

大阪府出身

1993年

株式会社リクルートフロムエー  
(現株式会社リクルート)入社

営業、商品企画、営業企画などを担当

2003年

株式会社リクルート  
(現株式会社リクルートホールディングス)出向

マーケティング業務などを経て  
アルバイト・パート領域の事業企画責任者

2007年

株式会社ツナグ・ソリューションズ設立

私たちは「採用市場におけるインフラ企業」を目指し、積極的にM & A や事業会社設立を展開しています。

- 
- 2007年2月 設立
  - 2007年3月 創業「RPOサービス開始」
  - 2013年11月 株式会社テガラミルを子会社化
  - 2015年3月 株式会社インディバルの全発行株式をヤフー株式会社より取得
  - 2015年4月 株式会社チャンスクリエイター設立
  - 2016年8月 株式会社スタッフサポーター設立
  - 2017年6月 東証マザーズ市場に株式上場
  - 2017年9月 株式会社asegoniaを子会社化
  - 2018年1月 株式会社スタープランニングを子会社化
  - 2018年7月 東証市場第一部に市場変更
  - 2018年10月 Regulus Technologies株式会社を子会社化
  - 2019年6月 ユメックス株式会社を子会社化
  - 2019年10月 株式会社ツナググループ・マーケティング設立
  - 2020年4月 株式会社GEEKを子会社化
  - 2021年1月 グループ会社を再編統合

## 免責事項

- この資料は皆様の参考に資するため、株式会社ツナググループ・ホールディングス(以下「当社」という)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

## 将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

IR関係のご質問・お問合せは、こちらまでお願いいたします

株式会社ツナググループ・ホールディングス／IR担当

**TEL**：03-3569-2790（受付時間 平日 11：00～17：00）

**MAIL**： [ir@tsunagu-grp.jp](mailto:ir@tsunagu-grp.jp)

**お問合せフォーム**： <https://tghd.co.jp/ir/inquiry/>

※お問合せがございましたら弊社ホームページのお問い合わせフォーム、もしくはメールにてご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。